

李秀澈教授定年退職記念号によせて

経済学部長 勝 浦 正 樹

李秀澈教授は、2025年3月末をもって定年を迎えられます。ここに名城大学および経済学部に対する李先生のご貢献に対して、心より感謝の意を表する次第です。

李先生は、1972年にソウル大学農学部をご卒業の後、韓国の全国経済人連合会（日本の経団連に相当する組織）などに勤務されました。そして1994年に京都大学大学院経済学研究科修士課程に入学され、同博士後期課程を経て、2000年から名古屋学院大学経済学部で教鞭をとられました。2005年には名城大学経済学部にて助教授として着任し、2008年に教授に昇任されました。

学部教育においては、環境経済関連の諸科目とともに、各種ゼミナール、国際フィールドワークなどを担当してこられました。環境経済関連の科目においては、専門知識を教授するだけでなく、環境問題に取り組むことの重要性なども熱心に伝えられ、学生の環境意識を向上させる活動を継続的に行っていました。また、国際フィールドワークでは、韓国をはじめとする諸外国に学生を引率し、海外での多様な体験を通じて学生にグローバル化を実感させるとともに、韓国の大学などと本学の学生との交流を深めるための様々な機会を創出し、学生の国際交流の推進にご尽力頂きました。さらに経済学研究科においても、留学生を中心に修士課程・博士後期課程の多くの学生を指導され、多数の修士（経済学）と博士（経済学）を輩出しております。李先生が指導した修了生は、環境に関連する職業をはじめ様々な分野において世界各国で国際的に活躍しています。

研究分野においては、数多くの論文・著書を公表するとともに、国内外での学会報告等も積極的に行い、多いに活躍してこられました。特に近年は、日中韓を中心とした東アジア諸国がカーボンニュートラルを達成するために必要な政策や制度を提言されております。さらに科学研究費補助金（科研費）には、これまで研究代表者として7件（基盤研究（A）2件、基盤研究（B）4件、基盤研究（C）1件）が採択され、その実績は本学の科研費功労賞を受賞されるなど高く評価されています。また、海外の研究者を積極的に受け入れるなど、研究における国際貢献にも重要な役割を果たされています。さらに、アジアの環境経済学者を代表する学術団体であるアジア環境資源経済学会の理事・副会長を歴任されるとともに、日韓の環境経済学の学術交流に力を注ぎ、日本の環境経済・政策学会の理事や韓国環境経済学会の理事・顧問などに委嘱されております。

学内においては、専門知識を活かして環境関連の諸委員を務められたことに加えて、グローバルな経験を活かしての国際関係の諸委員や科研費の獲得を含めた豊富な研究実績を活かしての学術研究関連の委員など、多くの委員を歴任されました。

ここに、李先生の名城大学での研究・教育等に対するご苦勞とご功績に心から感謝するとともに、今後のますますのご活躍を祈念して、定年退職記念号によせる言葉といたします。